報道発表 Press Release No: 364-22-40
2023 年 2 月発行

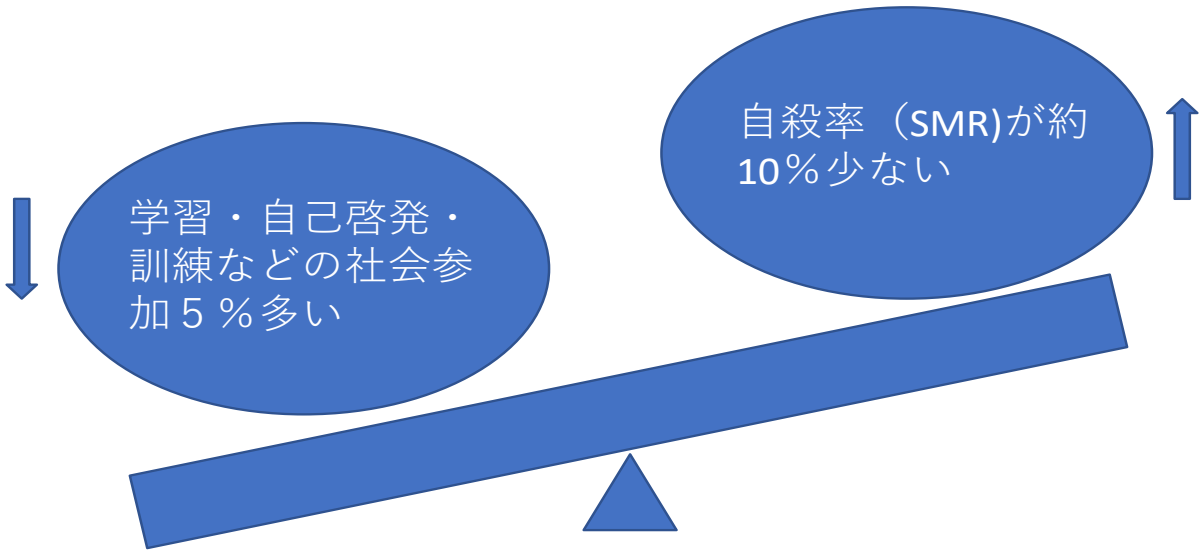
千葉大学

高齢者の社会参加する割合が5％多い都道府県は、自殺率(SMR)が約10％少ない

自殺率と社会参加の関係が注目されていますが、都道府県単位で調べた報告はありませんでした。本研究は、平成23(2011)年時点の調査で、都道府県レベルの社会参加行動者率と自殺率(SMR)の関係を調べた初めての報告です。一時点の男性21,437人、女性27,271人解析の結果、男性では、学習・自己啓発・訓練、趣味・娯楽への参加が多い都道府県は、自殺率(SMR)が低く、女性では、学習・自己啓発・訓練、ボランティアの参加割合が多い都道府県は、自殺率(SMR)が低いという負の関連が見られました。男女ともに、学習・自己啓発・訓練の参加率が5％多い都道府県は、自殺率が約10％少ない関連が見られました。これらから都道府県レベルにおいても、学習・自己啓発・訓練などの参加を促し、ソーシャル・キャピタルを醸成することが自殺の抑制につながることが期待できると思われます。＊自殺率(SMR)は、国の自殺率と同じとして計算した期待自殺者数と実際の都道府県の自殺者数の比を算出した数値です。

お問合せ先： 千葉大学予防医学センター 研究員 中村恒穂 tsuneo@cc.rim.or.jp

男性・女性共に、学習・自己啓発・訓練などの社会参加が5％多い都道府県は、自殺率（SMR)が約10％少ない。



これらから社会参加を促すことが自殺の抑制につながることが期待できる。

報道発表 Press Release No: 364-22-40
2023 年 2 月発行

千葉大学

■背景
高齢者の自殺対策を進める上で、社会参加などのソーシャル・キャピタルが注目されている。今までに市町村レベルのソーシャル・キャピタル指標と自殺率との関連は、報告があるが、都道府県レベルのソーシャル・キャピタルと自殺率の関係については、報告がない。そこで、都道府県レベルのソーシャル・キャピタルの社会参加の指標である行動者率と自殺死亡率との関係を明らかにすることを目的とした。

■対象と方法
本研究は平成23(2011)年時点での研究であり、都道府県を分析単位とした重回帰分析を行った。各都道府県の2010－12年の男女別60歳以上自殺率(SMR)と、ソーシャル・キャピタルとの関連を調べた。サンプル数は、男性21,437人、女性27,271人だった。ソーシャル・キャピタル指標は、平成23(2011)年社会生活基本調査の65歳以上男女別行動者率を用いた。社会参加行動者率は①スポーツ、②学習・自己啓発・訓練、③ボランティア活動、④趣味・娯楽、⑤これら4種総計行動者率とした。解析では、一人当たり県民所得、高齢単身世帯割合、完全失業率、可住地人口密度、日照時間、降水日数、最低気温の影響を考慮した。

■結果
都道府県レベルの社会参加行動者率と自殺率(SMR)との関係を調べた結果、男性では、学習・自己啓発・訓練、趣味・娯楽、4種総計行動者率で負の関連($p<0.05$)が見られた。女性では、学習・自己啓発・訓練、ボランティアへの参加割合が多いと自殺率(SMR)が低いという負の関連($p<0.05$)が見られた。男女ともに、学習・自己啓発・訓練の参加率が5%多い都道府県は、自殺率が約10%少ない関連が見られた。

■結論
これらから都道県レベルにおいて学習・自己啓発・訓練などの社会参加を促してソーシャル・キャピタルを醸成することが自殺対策につながる可能性が示唆された。

■本研究の意義
都道府県レベルのソーシャル・キャピタル指標と自殺率(SMR)との関係を調べた最初の報告である。男性では、学習・自己啓発・訓練、趣味・娯楽、などへの参加が多いことが、女性では、学習・自己啓発・訓練、ボランティア活動への参加が多い事が自殺率(SMR)が少ない事と関連が見られた。都道府県レベルにおいても社会参加などのソーシャル・キャピタルを醸成することが自殺の抑制につながることが期待できる。

■本研究の限界
本研究は一時点の研究であることから、因果を論じるには限界がある。しかし、先行研究の多時点データを用いた分析研究から、うつを介した因果メカニズムが報告されており、社会参加が自殺死亡率を抑制するという因果関係は高いと思われる。今後、多時点データを用いた分析研究が望まれる。

■発表論文
都道府県レベルにおけるソーシャル・キャピタル指標と自殺死亡率との関連ー社会生活基本調査を用いた横断研究ー　厚生の指標,2023:70(1),16-23.

■謝辞
本研究は、自殺対策総合推進センターの革新的自殺研究推進プログラム、厚生労働行政推進調査事業費補助金、厚生労働科学研究費補助金、産学共創プラットホーム共同研究推進プログラム、日本医療研究開発機構の研究助成の基金を得て実施した。記して深謝します。